
レニ<1000% ~おい俺の筋肉~

竹月 力内人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

レニ<1000% ~おい俺の筋肉~

【Nコード】

N2891Z

【作者名】

竹月 力内人

【あらすじ】

大学生でありながら雑誌の専属モデルとして生活していたイケメンが突如部屋ごと異世界へ。ダンジョンに潜ってお金を稼がないと全てが消えてしまう。ダンジョンに潜るたびイケメンの秘められた願望が露わに。そして変貌していく肉体。イケメンは一体何になるのか。異世界最強チート無双御都合主義と流行を盛り込みつつ肉が踊ります。

プロローグ（前書き）

いきなりとなりますが、リアルが忙しいので更新速度はメチャ遅です。

女の子成分は当分ありません。会話すらありません。当分の間状況説明で進んで行くと思います。

久々に書く文章ですので滅茶苦茶だと思いますが、それでもお付き合い頂ければ幸いです。

プロローグ

夢を見た。

光の中をどこまでもどこまでも進む夢。

だから意識が浮上して、朝日に照らされたと思っていた窓の先が、単なる光の世界だという事に気付かず、いつも通りのトーストとラムで朝ご飯を済ませた後の僕の痴態は、今語ることはないだろう。ガス・水道・電気は通っている。しかしテレビには砂嵐のみがながれ、インターネットは繋がらず、スマホにも電波がない。

玄関は何をしても動かず、窓も同じ。

閉じ込められたのかと思いきや、2LDKの我が家のドア数5が6に増えている。玄関でも寝室でも物置代わりの部屋でも風呂でもトイレでもない6つ目のドア。隣人が住んでいるはずの場所へと続くドア。

なぜ今まで気付かなかったんだらうと、不思議に思うほどの存在感を醸し出しているドアが、リビングの何も無い壁に存在していた。そのドアを前に、自分が狂ってしまったのではないと、自分自身を考える。

たかだま高田勝^{たかだま}21歳。男。身長192cm体重68kg。大学3年。C

OWCOW専属モデル。髪はスパイキーショートの黒茶。顔はまあモデルがやれる程。性格は穏やかだけど理知的ではあると思う。草食系だのイケメンだのよく言われている。筋肉が付かないひ弱な身体がコンプレックス。子供の頃から背だけは大きかったから、小学生ではマツチ棒、中学生では耳かきという渾名もあったほど。高校に入ってモデルを始めてから変な渾名は付かなかったけど。両親は健在で、兄弟は10歳の妹が1人。まあモデル始める時に勘当されてるから6年会ってないんだけど。彼女は今はいない。付き合った人数はそこそこいるけど、恥ずかしながら童貞^{チェリ}。心を開かない

つまでも余所余所しい僕に、愛想を尽かしてすぐに振られるから。まあそんな僕だからもちろん軽い友達はたくさんいるけど、親友と呼べるような存在はいない。考えていてちよっと寂しくなってくるが、これが僕なんだから仕方がない。

勝手に落ち込んだりしながら、自分の精神に異常がないと思う。夢のような曖昧な精神でないことから、これが現実なんだと認識するしかない。

とにかくドアを開けなければ何も進まないと決心し、ドアを開けた。

先に見えたのは隣部屋ではなく、艶のある黒い壁に囲まれた10畳程の部屋。天井床壁全て仄かに青白く光っている。

中に入るのを躊躇いながら観察していると、部屋の中央に何か映画のパンフレットのような白い冊子が置いてあるのに気付いた。

怖々一歩を踏み出し、何とも無いのを確認しゆっくりと一歩一歩前へ進む。部屋の中央に到達し、白い冊子を手に取る。表も裏も真っ白で、タイトルも何も書いていない。

一度パラパラと捲ると、中には文字と絵が確認できる。今度は1ページ目からちゃんと読み始めた。

簡単に言ってしまうえば、この冊子は説明書だった。

RPGの説明書に似ていると言えば良いだろうか、中に書かれている事を実際に行ってみたら出来たのだから驚きだ。

「ステータスオープン」

念じるだけで言わなくても大丈夫なようだが、慣れるまでは口に出そうと思う。

言い終わると同時に景色が暗転、言葉と数字の羅列のみの世界へと移行した。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0
LV 1 (10)

STR 1 AGI 1 DEX 1
VIT 1 INT 1 MND 1
FP 10

HP 150 / 150 MP 150 / 150
ATK 1 MATK 1
DEF 1 MDEF 1
SPD 1 MSPD 1
WEIGHT 2

職業：
称号：
信仰：
アビリティ：【ワープ】
アクティブスキル：
パッシブスキル：
状態：

武器：説明書
防具：無地のシャツ 黒のボクサーブリーフ
他：純銀のピアス

RPGそのままのようなステータスだった。ステータスの意味は
ぎゅと以下。

STR 力 ATKとSPDとWEIGHTに関係する
AGI 素早さ SPDとMSPDWEIGHTに関係する

VIT 体力 HPとDEFとWEIGHTに関係する
DEX 器用さ SPDとMSPDに関係する（数値以外にも細かい作業などの影響があるらしい）

INT 魔力 MATKとMSPDに関係する
MND 精神力 MPと魔法スキル量に関係する
FP フリーポイント ステータスに自由に振れる数字

HP 身体マナ保有量 身体を構成するマナの保有量で、0になると死亡となる。

MP 魂マナ保有量 魂を構成するマナの保有量で、0になると死亡となる。

ATK	物理攻撃力	MATK	魔法攻撃力
DEF	物理防御力	DEF	魔法防御力
SPD	行動速度	MSPD	詠唱速度
WEIGHT	重さ	装備だけでなく体重にも比例する	

職業は、ギルドに所属すると得られるらしいのだが、ギルドってどこだ？ハローワーク？

称号は、ステータスやスキルや行動などで変化するらしい。信仰は、何かに縋ると得るらしい。神とは限らないらしい。

アビリティは、条件を満たすと得られる固有レアスキルらしい。アクティブスキルは、物理ならHPを魔法ならMPを対価として行う技のようなもののように。

パッシブスキルは、何の対価も必要としない常時発動型の技（？）のようなもののように。

状態は、身体もしくはは精神に作用する何かしらの異常または祝福になると現れるよう。

武器は、武器と認定された手に持つか意識すると装備されるようだ。説明書は武器なのかあ。

防具は、防具と認定された身につけている物が装備されるようだ。

パンツも防具の一部です。DEFの数字からして何のDEFも付いていないようではあるが。

他は、武器と防具以外の持ち物が表示されるようだ。説明書はこっちだとおもっただけだな。

説明書を読んだ限りでわかった範囲はこんな所である。

アビリティにある【ワープ】は、自動登録された場所へと瞬時に移動するスキルだった。

【ワープ】を念じると2つの名前が表示される。バルバレイダ
ンジョン　マイルーム　の2つだ。

そうダンジョンだ。

説明書には、ダンジョンに潜りモンスターを倒すとお金が手に入るとだけ書いてあった。

そして最悪だったのが、10日毎のお金の徴収。ガス・水道・電気と賃貸代として1000を徴収するのだという。しかも10日毎に1000ごと増えていくのだ。払えなければ全てが消えるとだけ書いてあった。全てに僕も入るのだろう。消えたくないのですお金を稼ぐ必要性がある。

そう考えていると、いきなり元の視界へと変化する。

どうやら規定の10分が過ぎたようだ。ステータスに潜れる時間は1回に10分以内と決まっっていて、5分間のインターバル後に再び潜れる。ステータスに潜っている間は外の時間は流れないのだから、制限時間がないと、いつまでも出てこなくなる事もあるからだろう。

「ショップオープン」

再び暗転し、文字と数字の世界へ。

今度はその名の通り店だ。

武器、防具、アクセサリ、便利道具、食料の5種類だ。今はお金が無いので何も変えないが、今部屋にある食料の備蓄がなくなれ

ば、食料を買わないとならないだろう。

食料を見た感じだと、ハンバーガー 100 だとか食料だけではなく料理もあるので料理せずに済むのは楽かもしれない。

ちなみにシヨップはこの部屋でのみ開ける。

「シヨップクローズ」

暗転し元の部屋へ。説明書を持ったままリビングへ戻りドアを閉めると、そのままキッチンへ向かい冷蔵庫から缶ビールを取り出しリビングにあるソファアに座る。缶ビールを開け一気に煽る。一度も息継ぎする事もなく飲みきると。

「はあああああああああ！ ……まじでか」

空気と一緒に何かをはき出す。

胃の中に無理矢理流し込まれたビールのアルコールが、血液に乗って全身を駆け巡っていく。酔いはしないが、少し鈍くなった頭と身体感覚に任せ目を瞑る。

寝て起きたら元の世界へという甘い考えに縋ろうと思えない。

ただ、いきなりの事態と情報に、気持ちよりもまず脳の整理と思い眠ることにした。

起きたら時計の針が10時を超えていた。起きたのが7時だったから、2時間ちよつとは寝ていたのだろう。

身体アルコールはもう抜けているようだ。肝臓が強いのか昔からアルコールが抜けるのが早かった。昔と言ってももちろんハタチカラダヨ。ホントダヨ。

とにかく、何となくだったけど頭のモヤモヤも無くなり、今の状況を頭が飲み込んだようだ。ゴチャゴチャしたら寝るに限る。まず優先順位を決めよう。

- 1．生き抜く。死にたくないから当然だ。
- 2．レベルアップして強くなる。生き抜くに通ずるけど。
- 3．ダンジョンの探索。帰るための手掛かりを探さないと。

とりあえずはこの3つかな。というかこの3つくらいしかないか。優先順位も何もないな。整理しようとした甲斐がない。

だが、僕はここに来て気付いた。強くなるにはレベルアップすればいい。つまりモンスターを倒せば強くなる。逆に考えれば、筋トレ等身体を鍛えたり、格闘技を習ったりしなくてもモンスターを倒せばレベルが上がって強くなるのだ。

僕は過去行った筋トレを思い出す。どんなに筋トレしようとも通販で買った震えるベルトを使おうとも、一向に増えることの無かった僕の筋肉。筋肉が増えるとは限らないが、モンスターを倒せば強くなるのだ。ちよつとワクワクしてきてしまった。

そうと決まればモンスターを倒すために武器を装備しないと。何か武器になるような物を探さなければ。

辺りを見回す。

椅子、違うな。傘、最終手段だ。包丁、有りだけどリーチが心許ないな。モンスターがどんな奴なのかもわからないのに短い武器は使いたくない。っとそういえば防犯用に玄関に置いてあるアレがあった。

玄関に向かい下駄箱の下の空間に寝かされたアレを取り出した。

次は防具を考えよう。

……。

服はたくさんあるが、防具になりそうな物が全くない。

仕方ないので動きやすさを優先して高校時代のジャージの上下を着た。身体のサイズが変わってないので全く違和感がない。

とりあえず装備はこんな所か。ステータスを確認しよう。

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0

LV 1 (10)

STR 1 AGI 1 DEX 1

VIT 1 INT 1 MND 1

FP 10

HP 150 / 150 MP 150 / 150

ATK 11 MATK 3

DEF 2 MDEF 1

SPD 1 MSPD 1

WEIGHT 5

職業：

称号：

信仰：

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：

パッシブスキル：

状態：

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

おお。ATKが11になってる。単純に考えてアレである釘バットはATK10あったのか。高校時代に友達と悪ふざけで作った釘バットがここで実際に使われる事になるとは。ってジャージのDEFさりげに1あるし。MATKが上がったのはどっちだ？まあ魔法

スキルも何も覚えてないから別にいいけど。

ああそうだったFPをステータスに振らないと考えると、数字の横に【+】のボタンのようなのが出てきて、それとは別に全裸の僕の姿が立体映像のように現れた。

説明書には最後に下にある【OK】ボタンを押さないと確定されないと書いてあったので、とりあえずSTRの所の【+】を押すよくなイメージをすると、STRが2になった。

取り消せるからと全部STRに振り込んでみる。STRが11になり、ATKが21になった。驚きなのがWEIGHTだろうが15に増えている。

ATKに魅力は感じるがHPも増えていないので、これは無しだと下の【CANCEL】を押した。数字が全部戻ると同時に隣に表示されていた全裸の僕に違和感を感じる。

何かちよつと変化したような。気になったのでもう一度STRに全振りしてみた。隣の僕の姿に少し違和感を感じる。

取り消して確認。全振りして確認。を何度か繰り返す。

身体のサイズがちよつと変化している？

今度は他のステータスでも試してみた。

間にインターバルの5分を3回くらい、約1時間ほど検証を続けた。

AGI何も変わらず。DEX何も変わらず。VIT変わった？INTとMNDは何も変わらない。

STRとVITで少し身体がガツリしている気がした。もしかして筋量増える？

よし。STRとVITを上げよう。5ずつ上げて【OK】を押した。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0

LV 1 (10)

STR 6 AGI 1 DEX 1

VIT	6	INT	1	MND	1
FP	0				
HP	400 / 400	MP	150 / 150		
ATK	16	MATK	3		
DEF	8	MDEF	1		
SPD	1	MSPD	1		
WEIGHT	15				

職業：

称号：

信仰：

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：

パッシブスキル：

状態：

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

数値でわかったことは、STRの数字がそのままATKに足される事。VITも同じくDEFが上がることで、1上げるとHPが50上がる事だ。

WEIGHTとSPDはFPが10だけだと検証しきれないので、後回しにすることにした。

「ステータスクローズ」

リビングに戻った俺は、ジャージを脱ぎ自分の身体を確認する。

確かに少し筋量が増えた気がするようないような。
その場で腕立て伏せを試してみる。

なんと10回も出来た!!

これは驚きだ! 3回が最高記録の僕にとって2桁という夢の数字に到達するなんて。

もっとSTRを増やしたら出来る回数が増えるのだろうか。

ダンジョンへ行こう!!

この気持ち勢いのそのまま、躊躇わないうちに行っちゃえ。

「ワープ! バルバレイダンジョン!」

……。

……。

……。

……。

……。

……あれ?

スキル発動するはずだよな?

どうして何も変わらないのかな?

もう一度だ!

「ワープ! バルバレイダンジョン!」

……。

……。

……。

発動しない。なぜだ?

ステータスは開けた。何が違う?

……シヨップ?

ここではシヨップが開けない。スキルも発動しない?

あの部屋でないともしかいて【ワープ】は使えないのか？
黒い部屋へと移動し、中央に立ち一先ず深呼吸。

「ワープ！　バルバレイダンジョン　！！」

言葉の終了と同時に足下に直径が50cm程の幾何学的な文様の
魔方陣らしき光が走ると、僕を包むようにして青い光があふれた。
視界が完全に青い光に包まれたと同時に、自分が何かの力に引
張られたのを感じ、青い光が白へと変化する。

僕は、未知への恐怖とそれと同じくらいの好奇心と、ほんの少し
だけある希望を抱きながら光が消えるのを待った。

プロローグ（後書き）

まだ成分は1%未満といった所です。本編から徐々にパーセンテージを上げていきたいと思えます。

内容に関してはよっぽどの事が無い限り、変える予定はありません。ただ、文章に関してこうすると読みやすいなど、アドバイス頂ければ幸いです。

つたない文章でございますが、よろしくお願ひします。

1・1日目(前書き)

ストック無しの順次投入。
少しだけ片鱗を。

視界を埋める白い光が赤く染まりだし、光が消えると【ワープ】する前とあまり変わらない空間にいた。

黒い10畳ほどの部屋というのは変わらず、ただ違つのは青白い光ではなく赤白い光が部屋を仄かに明るくしている。

振り返ると見覚えのあるドアがあり、開けた先は洞窟だった。

つまりあの部屋でのみ【ワープ】とシヨップが使えるのだろう。迷わないようにしないと不味い。

洞窟の広さは横に3m、高さも3mといった半円筒状型である。まるで大きな岩をセツセと掘り進めたようなゴツゴツとした岩肌、所々に入る亀裂から水が染み出し、さらにその水によ

って光を発する苔のようなものが生えていた。気温としては15℃くらいか、少々肌寒さはあるが風も無く、湿り気のある空気が充満している。

何があつても良いように両手で釘バットを握り直し、ゆっくりと歩く。10mも歩かないうちに前方に光に照らされた何か半透明の物が見えた。

警戒しながらゆっくりと近づいていく。その半透明の物まで10歩程まで近づくと、ハッキリと確認できるようになった。

高さも横は1m程の丸形、乳白色の半透明の身体の表面をウネウネと動かしこちらに向けて動いている。

超有名モンスターであるスライムと言われたら納得の姿。ただゲームで感じるよりも大きくて気色悪い。

そのスライム擬きはこちらには気付いてないのか、動く速度は変わらない。試しに壁際に寄つてもただ道の真ん中を動いているだけで、こちらには来る様子がない。

気付かれないうちに先に攻撃するか、もう少し様子確かめてア

クティブなのかノンアクティブなのか確かめるか。

少し考えた先の結論はやばかったら逃げるといふ事で、様子を確かめる事にした。

まず釘バットで地面を叩いて音を出す　気付かないようだ。ノンアクティブの可能性が上がった。

次はいつでも対処できるように釘バットを構えつつ横歩きをしながら壁際を歩く。スライム擬きとすれ違おうが、気付かれた様子がない。

スライム擬き、いやもうスライムで良いな。スライムはどうやらノンアクティブのようだ。こちらから攻撃しない限り大丈夫だろう。たぶん。

だが先制攻撃できるならこちらにとつては十分有利な相手だ。

もしもの時のために逃げ道確保するべく警戒はしながらもスライムの横を通り過ぎ、5歩の距離を取ってカウントを始めた。

スライムが2歩の距離まで近づいてきたら攻撃する。

4歩……3歩……2歩

今だ！

高校の授業で習った剣道を思い出しつつ、大きく右足を踏み込みながら、上段から釘バットを振り下ろす。

ドムツと鈍い手応え。だがスライムに何の変化も起きない。もう一発。一歩下がりが右足を踏み込んだの上段からの振り下ろし。

ドムツと変わらない手応え。もう一発だ。同じ動きで下がり釘バットを上段に振り上げた時だった。

スライムの頭頂部から腕のような物が生えたと思った瞬間、胸に衝撃。

痛い！

痛みと共にHPが12減ったのがわかった。

硬直した身体に活を入れて釘バットを踏み込み振り下ろす。もう一発。下がったら今度は腹に攻撃をくらってしまった。

今度は10ダメージを負う。

痛みを堪えつつ踏み込んでの攻撃。

グシャツと釘バットがスライムにめり込むと、そのままポロポロと崩れおちていった。

何とか終わった。HPは22減ったようだが、打たれた胸と腹に痛みは残っていない。

とにかく初戦闘はクリアできた……あれ？

急に膝に力が入らなくなり、景色がグルグルと回り出す。

尻に衝撃

暗転

「　　つつつつはっあっ!?　はっ!　はっ!　はっ!　はっ!
!　はっ!　はっ!」

しかけた所で視界が戻ってきた。

呼吸が徐々に落ち着いてくる。

あー、呼吸するの忘れてた？

身体を起こしつつ、異常がないか確かめる……よし異常なし。

うわあ、自分が思ってたより緊張していた?　呼吸忘れるなんて

始めてた。

別にスライムを殺した(?)事に何ら感じる事はないけど、初めての戦闘に達成感に似たような何かを感じている。

ただ若干口の中に残るのは、ダメージを受ける事で感じた痛みによる死に対する苦み。

自分では冷静に対処していたようで、出来てなかった事が悔やまれる。

慣れるしかないな。先に進もう。

歩き出した僕の前に再びスライムが現れたのは約10分後、奥に二叉に別れる道の手前で発見した。

ノンアクティブだろうとわかつてはいるが、もしものためにゆっ

くりと近づき、音を立てるなりして確かめる。
やはり動く以外に何の行動もしてこない。
深呼吸を何度かして再びの戦闘へ突入した。

今度は呼吸を忘れずに、釘バットを振り下ろすと同時に息を吐き出す。

鈍い手応え。すぐに一步下がると同時に息を吸い込み、吐き出しながらの振り下ろし。一步下がる。スライムからの攻撃、避けれずに腹に衝撃。10ダメージ。

痛みに歯を食いしばりつつ、息を吐き出しながらの振り下ろし。スライムからの攻撃を避けようと先に右後方に移動　　が左脇腹に衝撃。11ダメージ。

ちくしょうっと思いつつ、息を吸い込み、今までと違い左足を斜めに踏み込みつつ袈裟懸けに振り下ろす。その一撃がスライムにめり込み、崩れ消滅する。

後には何も残っていなかった。

少し荒れた空気を幾度かの深呼吸で整え、とりあえず今回わかった事を考える。

先制攻撃だからか、1撃目に反撃はないが2撃目の後は1撃の攻撃毎に反撃が来る。たぶん何処に動こうと今の僕の強さでは避けられない。

ATK16で4撃、単純計算でHP64。DEFが幾つあるかわからないので、今はこれで良い。スライムからのダメージは10〜12、わかる事は僕のDEFが8あったからATKは20くらい。数字のバラつきから単純にATK・DEF＝ダメージというわけでは無いのだろう。

現在の僕のHPは……そう考えると脳裏に365と浮かんだ。総計43のダメージだったのに計算が合わない。時間で回復してるのか他に何かあるのか。

座って時間で回復するか確かめてみる。

5分程でHPを確認するが365と何も変わっていない。もう少し確かめよう。

更に5分程で確認するが変わらず、先に進もうと立ち上がった俺の前に乳白色のプルプルした物体が地面から湧き出てきた。スライムだ。

一定時間で復活する仕組みなのかな？

まあ、とりあえず戦闘だ！

4発目の僕の釘バットがスライムに叩き付けられるとスライムはバラバラになり消えた。相変わらず避けることができにくかったダメージは19と22の総計41。

自分のHPを確かめたら328だった。4回復してる。今まで倒した3体で12回復した計算だから、1体倒すと4回復するようだ。よしもう一度ここで戦闘しよう。

その場で座って10分ほど待つと、さっきと同じようにスライムが湧き出てきた。

さあ戦闘だ。

4発目の釘バットの振り下ろしをくらい、スライムがバラバラになると同時。

ピロロロリン

脳内に効果音のような音が流れる。

もしかしてレベルアップ？

「ステータスオープン」

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0
LV 2 (10)

STR 6 AGI 1 DEX 1
VIT 6 INT 1 MND 1
FP 10

HP 292 / 500 MP 250 / 250
ATK 16 MATK 3
DEF 8 MDEF 1
SPD 1 MSPD 1
WEIGHT 15

職業：

称号：

信仰：

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：

パッシブスキル：

状態：

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

やっぱりレベルアップしていた。あの効果音がレベルアップなの
だろう。更にゲームみたいだ。

HPとMPが100ずつ増えている事とレベルアップしてもHP
は元に戻らない事が伺える。

ふむ。ここは思い切ってくださいよう。

名前：高田 勝 年齢：21歳 種族：日本人 所持金：0
LV 2 (10)

STR 16 AGI 1 DEX 1
VIT 6 INT 1 MND 1
FP 0

HP 329 / 500 MP 250 / 250
ATK 26 MATK 3
DEF 8 MDEF 1
SPD 1 MSPD 1
WEIGHT 25

職業：

称号：

信仰：

アビリティ：【ワープ】

アクティブスキル：

パッシブスキル：

状態：

武器：釘バット

防具：学生ジャージ

他：純銀のピアス

STRに全部振ってみた。WEIGHTが増えすぎ。そして隣に表示された全裸の僕の身体が少し大きくなった気がする。

思い切って【OK】を押す。

「ステータスクローズ」

やっぱり身体が少しゴツくなっている気がする。
さあ、戦闘して確かめよう。

10分後の戦闘では、スライムを3発で倒し、21のダメージ1発で済んだ。4の回復を含めれば1体で17のダメージ。まだ戦えるが、何か身体が重い。

この場でもう少し戦おう。

1時間少々この場で6体倒し、HPが210になった所で、戻ることにした。

途中で1体のスライムと戦い、赤い光の黒の部屋に入る。

「ワープ！ マイルーム ！！」

赤い光から白い光へ、そこから青い光へと変化し、青い光の黒の部屋へと戻ってきた瞬間、脳内に文字が浮かんだ。

『スライム12 60 TOTAL60』

チャリーンつと音がして所持金が60増えたのがわかる。

なるほど、こういう仕組みなのか。モンスターのドロップが無いからどうなるのかと思ってたら。

特に買い物する必要は無いと思い、そのままリビングへ。

時刻は14時半くらいか。2時間半くらいいた計算になる。

初めてだからか、凄く疲れた。精神的に。

今日はもうここで終わりにして、ゴロゴロして過ごした。

1・1日目（後書き）

夜中にもう1話投入予定。
次は3日目だよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2891z/>

レニ<1000% ~おい俺の筋肉~

2011年12月10日20時48分発行